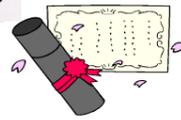


御陵の風

校長 西岡 浩一 （文責:教頭 藤井 浩彦）



御陵中「校訓」



◆3年生96名の素晴らしい卒業式へ向けて

3年生は、3月6日が公立高校一般入試、3月7日修了式・同窓会入会式（一部の生徒は個性重視の特別試験）、そして3月8日、第36回卒業証書授与式となります。右の写真は、卒業式の練習の様子です。3年生は、式の流れや作法の練習、式歌の練習、そして担任の先生から呼名されたときの「はい！」の返事の練習を行っています。



態度や作法、式歌を頑張ることはもちろんですが、何より3年生一人一人が主役になる瞬間、それは呼名のときです。保護者の方は、きっと自分の子どもがどんな返事してくれるのだろう…とドキドキワクワクされます。当然だと思えます。お子様がこの世に生を受けたとき、どれほど感動し喜ばれたことでしょうか。そして、たくさんの願いや思いを込めて「命名」されたと思います。

それからこの15年間、それぞれの家族の中に様々なドラマがあり、卒業の日を迎えるのです。楽しい幸せな日々ばかりではありません。苦しくてきつくて大変な時期もあったと思えます。保護者の方はそんな様々な「思い」を胸にその「はい！」を聞かれると思うのです。

私事になりますが、少しだけ息子の話をさせてください。私の息子は小さい頃から体が強い方ではなく、小学校のときには欠席がとても多い時期がありました。私は小さい頃からそのことで息子を叱ったり、家族で一緒に悩んだり、一緒に泣いたり…様々なドラマがそこにはありました。そして息子が小学校の卒業式を迎えました。私は式が始まる頃には自然と涙が溢れていました。今日を迎えられた嬉しい気持ちと、ここまで本当に頑張ってくれたという思い、そして苦しかった思い、様々な思いが重なっていたのです。そして、担任の先生から名前を呼ばれ、息子が元気な声で誇らしげに「はい！」と返事をしてくれたとき、感動して胸が熱くなり涙が止まらなくなりました。「今までよく頑張ったね！そして素晴らしい返事をしてくれてありがとう！あなたがいてくれて本当によかった！」そうつぶやきました。

きっと親だったら、家族だったら同じような思いをされるのではないかと思います。だから、私たち教師は卒業式という大切な節目を前に子ども達に言います。

『あなた達がここまで生きてこられたのは親のおかげです。家族のおかげです。たくさんの周りの方々のおかげです。だから、15年分の「感謝」が伝わる「はい！」を言おう！15年分のあなた達の「思い」が伝わる「はい！」を言おう！15年間での「成長」が伝わる「はい！」を言おう！「はい」の2文字に精一杯の思いを込めて、後ろにいらっしゃる保護者の方に届く「はい！」を言おう！…あなた達は、ここにいるだけで素晴らしい。ここにいることに意味があり、価値がある。私たち（担任）はたくさんの願いの込められた素敵なあなた達の名前を心を込めて呼びます。だから、堂々と胸を張って最高の「はい！」を言ってください。』

そして、続けて言います。

『そのときあなた達の親や家族の方はこう思います。「15年間、頑張ってきてよかった。この子がいてくれて本当によかった。たくさん喜ばせてくれたり感動させてくれたり時にはけんかしたり、心配もたくさんした。でも今日という日を迎えられてよかった。あなたがいてくれて本当によかった。ありがとう…」感謝を伝えるとはこういうことです。みんなで最高の卒業式にしましょう！あたたかく感謝の溢れる素敵な卒業式にしましょう！』と…。

3年生は当日きっと、素敵な態度、歌、そして返事をしてくれると思えます。そしてここまで一生懸命に頑張ってきた3年生のために、1年生も2年生もそして職員も一丸となって、素敵な卒業証書授与式になるように頑張りたいと思えます。

なお、当日は10時開式となります。3年生の保護者の皆様は、9時45分までにはご入場ください。よろしくお願いたします。

今後の行事予定

3月14日(木) 2年生進路説明会 15日(金) 生徒総会 22日(金) 修了式

「あの日」から8年…

「あの日」から8年の月日が経とうとしています。8年前のあの日、中学校ではちょうど卒業式の日でした。次々に入ってくるニュースの映像に、我が目を疑うばかりでした。

一瞬の間に家や車が流され、町や集落はその姿をなくし、多くの人々の命が奪われて…。数時間前に入籍した旦那さんが行方不明になった女性、泣きながら母親を捜し続ける子ども、家族を亡くし途方に暮れる人たち…。「生きてくれてさえいればいい」「家族がいるだけでいい」…。ある女性は、涙ながらにこう訴えていました。「みんないなくなっちゃった。一人になっちゃうよ。いやだよ、帰ってきてー」

本当に心が痛みました。涙が出てきました。胸が苦しくなりました。私は、ここにいていいのだろうか？助けに行かなくていいのだろうか？…。そう思いながらも普通に生活をしている私が、何だか悪いことをしているような気になりました。

2011年3月11日(金)14時46分、東日本を襲った悪魔の様な地震は、マグニチュード9.0の巨大地震。10mを越える津波（最大の高さは約40m）、それによる建物の全壊・半壊は約40万戸、死者1万9630人(災害関連死を含む)、行方不明者2569人[2018年3月1日現在]、避難者は、約5万3千人[2019年1月現在]、被害額は約16兆9千億円と言われています。また、世界銀行の推測によると、自然災害による経済損失は、人類史上第1位と言われています。現在までに、がれき処理、住宅再建やインフラの復旧も行われ、避難者が地震当時の47万人から5万3千人にまで減少したことを考えると、復興もずいぶん進んだように思われます。しかしながら、例えば岩手・宮城・福島3県でのプレハブの応急仮設住宅に住む人は今年1月時点でまだ3418人。撤去が進む中で転居先のめどが立っていない人もいらっしゃる。また、15mの津波に襲われた福島第一原発の問題も解決されていません。完全な廃炉には30～40年程度の期間、年に2000億円程度費用がかかり廃炉までに8兆円、除染には4兆円（賠償を入れると16兆円）かかると試算されています。それ以外にもまだまだ様々な課題を抱えています。決して他人事で済まされることではありません。私達はこのことを風化させず、3月11日を迎えるにあたり、しっかりと考えることが大切だと思います。この震災を経験した日本、そして日本人である私達は命の大切さ、家族の大切さ、人々が支え合うことの大切さなどたくさんのことを学んだはず。私達は改めて「命」の大切さと、その尊さに気づいたはず。 「命」があるということ、「生きているということ」自体が幸せなことなのです。私たちの「命」は多くの人々のお陰で、多くの物のお陰で成り立っています。「命」を大切にすること、それは「精一杯に生きる」ことなのです。

また、福島第一原発をはじめとする原発問題、そしてこれからのエネルギーについて様々なところで議論され、また話題にもなります。私は、明るく素晴らしい未来のためには、原発問題や再生可能エネルギーだけを考えるのではなく、「人のエネルギー」についても考えることが絶対に必要だと思うのです。東日本大震災のときにも世界中からボランティアの人達がかけつけ、人々は助け合いました。多くの人々がその姿に感動し、勇気をもらいました。「人」のもつエネルギーは偉大なのです。

一人の力は小さいけれど、力を合わせれば1+1=2ではなく、3にでも4にでもなるのだと思います。私達教師は、未来をつくっていく子ども達の教育に携わっています。そして、私達を含むすべての大人が、子ども達にもっと積極的に関わり、夢を持ち人々のために社会のために尽力する人、未来のエネルギーをつくっていく子ども達を育てていかなければならないと思うのです。3月11日を迎えるにあたり、子ども達にも人として、世界の中の日本人として、何が大切なのか、何ができるのかを考え、行動し、生きていくことを考えてほしいと思っています。ご家族でもぜひ話題にさせていただければと思います。

3. 11・・・絶対に忘れてはいけない日です。一人の人間として、真剣に考える日です。「命」、「自然」、「人」、「エネルギー」・・・様々なことについて考えなければいけない日です。マザーテレサはこう言っています。「私たちは、この世で大きいことはできません。小さなことを大きな愛をもって行うだけです。」

3月8日に御陵中学校を巣立っていく卒業生96名が、それぞれの道でしっかりと努力をし力を蓄え、将来社会で世界で活躍してくれることを願いつつ、その日を迎えたいと思います。